

第三章 研究開発の経緯と内容

A スーパーサイエンスハイスクール文化講演会

(1) 研究開発の課題（研究概要）

卓越した業績を残した科学者による講演会を実施して、生徒の意識・意欲の向上に役立てようとするのが本事業の目的である。また、近隣の中学の代表者や地域の高等学校の希望教員に参加してもらうことで、一宮高校SSHへの理解を深めてもらうことも目的としている。

(2) 研究開発の経緯

昨年の重点枠事業SSH生物講習会の講演を聞いた複数の教員から、SSH文化講演会で生徒に長谷川先生の講演を聞かせたいとの申し出があった。長谷川先生に講演を依頼し、内諾を得た（平成26年1月）。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は科学への関心や批判的思考力などの「科学リテラシー」を促すことができる。

イ 研究の内容・方法

| | | | | |
|----|-------|-------|-----|-----|
| 対象 | 本校生徒 | 1083名 | 教員 | 50名 |
| | 中学校生徒 | 40名 | 教員 | 16名 |
| | 連携校教員 | 6名 | 保護者 | 73名 |

日時場所 9月26日（金）一宮市民会館大ホール

実施内容

演題 「生物学のおもしろさー進化と多様性」

講師 総合研究大学院大学副学長 長谷川 眞理子 先生

内容 生物学には3つの軸（生物の種類、分野、生物のレベル）があり、学習していることが3つの軸でどの位置にあるかが分かると、単なる覚えるだけのつまらない生物学がおもしろくなってくる。さらに生物の多様性を生んだ進化（生物の歴史）を知り、学習したことがつながるとさらに生物学はおもしろくなる。

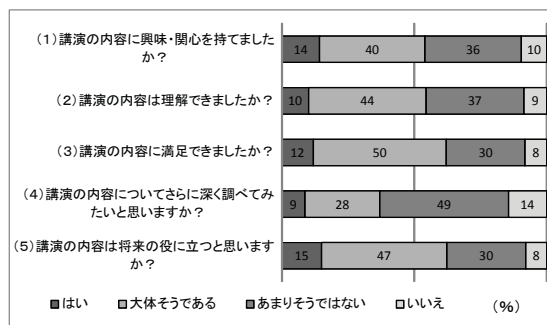


講演される長谷川先生

ウ 検証（成果と反省）



懇談会の質疑応答の様子



生徒の感想から

- ・サルと人間はほとんど変わらないと知って驚いた。奥深いなと思った。
- ・生物は暗記科目ではないということが分かりました。
- ・生物への興味を持つことができた。奥深いと知っていたが、改めてその難しさを知った。

高校生物を選択していない生徒は、講演の内容をやや難しく感じているようだ。講演前には、講師の研究分野や著作について簡単な事前準備をしたが、講演内容について事前に情報を得て、関連分野の内容に踏み込んだ事前準備しておけばより効果の高い取組になったと考えられる。

また、講演会後に別室で行われた懇談会では、生物に興味を持つ生徒が集まって活発な意見交換ができ、有意義な時間を過ごすことができた。